

「次世代の目録所在情報サービスを考える」

～大学図書館業務電算化との関連から～

鶴見大学図書館
長谷川豊祐

1-1. NACSYS-CAT/ILL の効果: 図書



Dokuromai
912.68
G
○
Yoshii, Isamu, 1886-1960
吉井 勇
骨髄舞
東京 新潮社 大正10(1921)
222p 19cm (現代脚本叢書 4)
200087
内容: 骨髄舞 川しんと馬 犬 葡萄棚

津責



利用者: アクセス性能の向上

鶴見大学図書館 蔵書検索
Tsurumi University Library OPAC

新着図書案内 雑誌最新号案内 雑誌タイトルリスト 分類検索 AV資料タイトルリスト OPACに戻る

ドキュメント: ホケ サンヘン

骨髄舞: 外三篇 / 吉井勇著
(現代脚本叢書; 4)

出版者 東京: 新潮社
出版年 1921
形態 222p; 19cm
著者標目 吉井, 勇(1886-1960) <ヨシイ, イサム>
分類標目 NDC7:911.16
NDC8:912.6
資料種別 その他
本文言語 日本語
コード類 書誌ID=10438323 NCID=BA36982748

WebCatPlus

詳細表示
前頁 はじめから

巻次	配架場所	請求記号	登録番号	状態	コメント	ISBN	刷年	利用注記
	書庫 準貴重	912.68/G	0200087	禁帯出				禁帯出

前頁



館員: 業務の省力化

- ・ 目録カードの作成
- ・ 予備配列
- ・ カードボックスへの組み込み

1-2. NACISIS-CAT/ILL の効果：雑誌(書誌・所蔵)

Advances in Librarianship. (010-A)
New York. 1(1970)-

1(1970)-



0122 (010-A)
Advances in Librarianship.
New York 1(1970)-

1(1970)+

0123 (人文)
**Advances in Library Automation and
Networking.**
Greenwich, Conn.

1(1987)+

利用者：アクセス性能の向上

新着図書案内 雑誌最新巻目案内 雑誌タイトルリスト 分類検索 入館資料タイトルリスト OPACに戻る

Advances in librarianship

巻次年月次 Vol. 1. (1970)-
出版者 New York : Seminer Press
出版年 1970-
形態 v. ; 24 cm
別誌名 AB:Adv. librariansh
KT:Advances in librarianship
注記事項 Publisher: Vol. 1-3, Seminer Press ; Vol. (4-), Academic Press
Editor: Vol. 1-7, Melvin J. Voigt ; Vol. 8-11, Michael H. Harris ; Vol. 12-14, Wesley Simonton ; Vol. <15->, Irene P. Godden
著者目録 Voigt, Melvin J.
Harris, Michael H., 1941-
Simonton, Wesley C.
Godden, Irene P., 1932-

件名標目 LCSH:Library science -- Yearbooks **ALL**
本文言語 英語
配架誌名 **Advances in librarianship**
配架誌名コ **ADVANCES IN LIBRARIANSHIP**
コード類 書籍ID=50001355 ISSN=00652830 NCID=AA00045456
WebCatPlus

前頁 はじめから

所蔵番号 (全ての製本を表示)	年次	配架場所	請求記号	コメント
1-30+	1970-2006	書庫 一般	010/A	

館員：業務の省力化

- ・目録カードのメンテナンス
- ・冊子体目録の発行
- ・データのアップデート

1-3. NACSIS-CAT/ILL の効果：雑誌(チェックイン)



利用者：アクセス性能の向上

- ・書誌所蔵データとの統合
- ・データのアップデート

刊年	Vol.	1	2	3	4	5	6	7	刊年	Vol.	1	2	3	4	備考
1980	1								1988	9	8.19	1.2.2	2.18	1.2.2	
	d.	1/27	3.2.10	6.12.24					1989	10	9.22		12.18		
1981	2								1990	11	2.1.12		3.19		
	d.	6.29	6.29						1991	12	4.12	7.16	10.12	1.10.17	
1982	3								1992	13	8.2.12		2.6.10		
	d.	9.3	1/27	4.8					1993	14	6.10	7.12	7.11	12.21	
1983	4								1994	15	6.3.2		8.9		
	d.	6.17	11.7	4.27	11.8.1				1995	16	9.3.0	1.13	12.16		
1984	5								1996	17	12.16	5.5.4	1.10	5.10	
	d.	7.3	7.26	12.1.11	4.3.19				1997	18	2.2.0		12.17		
1985	6								1998	19	6.12.6	6.9.24	4.15		
	d.	1.27	1.6	6.1.0	6.1.2				1999	20	7.5.20	7.5.4	7.5.23		
1986	7								2000	21	7.17.2.8		8.1.23		
	d.	6.1.20	6.2.12	7.12					2001	22	6.3	9.7.2	9.1.14		
1987	8														
	d.	7.16	11.27	6.24.6											

受入検印 (購入)・寄贈・交換 発行所
 発行回数 5 社名 977.364
 配列記号 社名 短一般
 Journal of Library Administration. MZ



製本巻号	製本年次	製本後配架場所	刊年	Vol.	1	2	3	4	備考
30	2006-2006	書庫一般	1994	010/A	4004405				1994-
29	2005	書庫一般	1993	010/A	4003760				1993-
28	2004	書庫一般	1992	010/A	4002678				1992-
27	2004	書庫一般	1991	010/A	4001541				1991-
26	2002	書庫一般	1986	010/A	0339338				
25	2001	書庫一般	1984	010/A	0282159				
24	2000	書庫一般	1982	010/A	0274607				1982-
23	1999	書庫一般	1981	010/A	0240136				1981-
22	1998	書庫一般	1980	010/A	0214265				1980-
21	1997	書庫一般	1979	010/A	0189399				1979-
20	1996	書庫一般	1978	010/A	0146152				1978-
19	1995	書庫一般	1977	010/A	0120699				1977-
18	1994	書庫一般	1975	010/A	0105586				1975-

館員：業務の省力化

- ・書誌所蔵と受入の統合

1-4. 目録の発展：利用者も館員も Win-Win

目録の種類と発展	1) マニュアル (70年以前)	2) 機械編集 (70年代～)	3) ネットワーク (80年代後半～)
図書目録	手書きカード目録 タイプカード目録	MARCカード 増加図書目録	NACSIS-CAT OPAC
雑誌目録	カード目録	冊子体目録	NACSIS-CAT OPAC
継続雑誌リスト ビジブルインデックス		継続雑誌リスト	NACSIS-CAT OPAC
総合目録	「新収洋書総合目録」 1954-56年版から 「学術雑誌総合目録」 1953年版から	「新収洋書総合目録」 1984-97まで 「学術雑誌総合目録」 '94和, '96洋まで	NACSIS-CAT

統合



利用者も図書館もWin-Win

1-5. NACSIS-CATと電算化の相互作用

学総目の存在

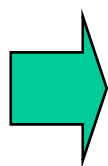
- ・学総目とILLによる長年の経験と実績

MARC

- ・目録規則とMARCの標準化による効率化

NACSIS-CAT

- ・共通化された書誌・所蔵データによる統合図書館システム
- ・図書館業務電算化の普及



図書館もNIIも Win-Win

2-1. 相互作用の効果(a)

共同目録作業による目録業務の効率化

- ・コピーカタログングによる省力化
- ・アクセスポイント作成の自動化
- ・消えたカード目録
- ・カード組込作業の消滅
- ・滞貨図書の解消
- ・整理業務のアウトソーシング

2-2. 相互作用の効果(b)

OPACによる検索機能の「統合」 高度化による検索サービスの向上

- ・アクセスポイントの強化
- ・図書と雑誌を一緒に検索，貸出状態も
- ・雑誌は，所蔵データと最新号受入データ も一緒に表示
- ・目録に関しては「いつでも，どこでも，だれにでも」を実現
- ・全文データへのリンクなどリンクの活用（検索と提供の一体化）

2-3. 相互作用の効果(c)

電算化の普及

- ・図書館システムのパッケージ化の推進
- ・業務電算化の定着
- ・発注・受入業務, 目録業務, 貸出・返却業務の「統合」による効率化
- ・ILL業務の活性化など, インターネットも活用した新たなサービス展開の可能性

3-1. 業務電算化の課題(a)

日常業務部分におけるシステム改善の欠落

- ・OPACなどで全集は巻号順に配列されるか
 - ・カード時代の排列が持っていた機能
- ・「ローカル ← NII ← MARC」における書誌データのアップデート(内容注記や件名など)
- ・ローカルで雑誌の配架誌名を用意
- ・マウスを使わないキーボードだけの熟練者用入力方法
 - ・一種のテクノストレス
- ・ほか

3-2. 業務電算化の課題(b)

更なる高度化の方向と

利用者と図書館のギャップの存在

- 件名などの主題分析
- 書誌データか全文データか(現在の目録で充分か)
- ハイタッチできめ細かな利用者対応

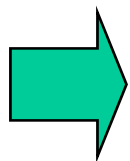
3-3. 業務電算化の課題(c)

図書館における「活力」の低下

- ・省力化の成果は業務の多様化と高度化に飲み込まれた
- ・ローカルとナショナルレベルの工夫も薄れて思考停滞
- ・アカウントビリティ(結果責任)が低下していないか
 - ・検索ツールとしての目録に対する当事者意識の低下
 - ・DBの検索性能への関心の低下
 - ・資料組織への認識の低下

4. 大学図書館の現状

- a) 経費，人員，意識が現在より十分で，やりたいことができた80年代ではない。マンパワーは業務の高度化や多様化によって相対的に低下
- b) 図書館間格差を認め，格差縮小は自己責任との認識が必要
- c) 図書館システムによる更なる効率化の必要性
(NACISIS-CAT/ILLに匹敵する省力化)
- d) 価格・リプレースが軽量で，運用も管理も簡便な図書館システムの必要性



現行システムにおいて効果と課題は存在する
次世代システムではWin-Winの関係構築が可能か

5. 次世代システムへの提案

日常業務の省力化と、軽量システムの要求にどうこたえるか

- a)選書, 受入, 発注, 支払業務のローカル業務標準化支援
- b)業務システムへの除籍ツールや貸出データ分析ツールなどのローカルツールの追加支援
- c)機能分担の大胆な見直し
各館DBの負担軽減→ローカルデータを総合目録で兼用
受発注での出版社との密結合→EDItEUR(p.5)
- d)競争的環境との認識を持たせる説明会
学術雑誌総合目録全国調査のような大学図書館界イベント